

「いっしょに歩こう！プロジェクト」～日本聖公会東日本大震災被災者支援～

【ミッションステートメント】

- ① わたしたちは、東日本大震災により困難を負って生きる人々に敬意を払っていっしょに歩きます。
- ② わたしたちは、被災地の方々の生活と地域の再創造に向けていっしょに歩きます。
- ③ わたしたちは、主イエス・キリストが、共に歩いてくださることに励まされていっしょに歩きます。

【リベリナ教区からの支援チーム来日】

北海道教区は、オーストラリア聖公会リベリナ教区との交流を深めてきましたが、今回の震災を受け、同教区より熊坂司祭と、マイケル・ハリナン氏が7月1日から10日間の予定で来日されました。同教区では、震災直後より嘆願が捧げられるなど、深い関心を寄せていただいておりますが、リベリナ教区の地域に対する災害等の際の支援活動体である「アングリ・ケア」を代表して、お二人がみえられました。お二人の働きは、仙台からスタート。教区で実施された「支援募金」を、日本聖公会震災支援仙台オフィスで手渡されると共に、仙台にある東北教区の施設「青葉静修館」での物資仕分け作業に参加。7月5日、大町司祭・吉野執事と合流し、車で約250キロに渡る三陸沿岸の被災地（石巻・南三陸・気仙沼・陸前高田・大船度など）を視察の後、釜石入りしました。釜石では、支援物資の配布、仮設住宅への訪問など、釜石神愛教会・幼児学園を通して行われている支援活動に参加されました。7月10日（日）の主日礼拝を、釜石の地で守られた後、11日（月）、札幌キリスト教会で開催される「被災地支援活動報告会」に出席され、共に報告されます。

【池田司祭から藤井司祭にバトンタッチ】

7月4日（火）、藤井八郎司祭（函館聖ヨハネ教会・今金インマヌエル教会）が、釜石での働きに着任されました。前任の池田亨執事（札幌キリスト教会）との引き継ぎを経て、同地での約1か月間の働きがスタート。一方、池田司祭は一か月を超える働きを終えられ、7月8日（金）に、離釜されました。尚、藤井司祭と共に、藤井直姉（函館聖ヨハネ教会信徒）が、ボランティアとして現地に入られ、ご夫妻での働きとなります。今年の釜石は、既に夏の暑さが厳しく、お二人が健康に働きを続けられるようお祈りください。

【漁労用合羽80着を援助】

7月6日～7日にかけて、釜石市内にある小漁港「大石」「本郷」両地区に対して、「漁労合羽」を支援物資としてお渡ししました。両地区は、釜石中心部より相当に離れた漁村で、震災当初より支援物資が行き渡らない状態があり、釜石に最初に着任した飯野司祭が釜石神愛教会の皆さんと共に、頻りに訪れ食料や生活必需品の支援を行った地域です。同地では、津波により人命や家屋も失われていますが、同時に作業用施設をはじめ、船や網などの資材の大半を失っておられます。生活再建と生産活動の再開に向けて、現在、最も必要なものを問い合わせました所、漁業従事者の日常の作業に欠かせない合羽（ズボンが胸まであるスタイルの物を想像下さい）が全く不足しており、入手も困難である事が判りました。町のホームセンターなどでは入手できない特殊なものであるため、飯野司祭と、網走聖ペテロ教会の信徒で永年漁業に携わってこられた斜里在住の山本浩史兄を通して、現地との連絡を取り合いながら発注作業を行いました。その結果、80着（約75万円）を支援費により購入しお届けする事ができました。現地の方々からは、今最も必要なものとして非常に喜ばれました。

【ボランティアベースが確保されました】

釜石では、震災直後より釜石神愛教会・幼児学園をベースにして活動を継続してきました。釜石神愛教会は、幼児学園（保育所）の、遊戯室を礼拝堂としており教会として専用のスペースを持っていません。そのため、旧牧師館の一部を活動のために提供いただいていたが、このスペースも通常は、0

歳児の保育のために用いられているものでした。幼児学園近隣に多くの仮設（約400戸）が設置された事もあり、仮設住宅からの就園児の受け入れも始まり、現在使用させて頂いている部屋も保育のために不可欠となる状況が迫っておりました。このため、ボランティアの宿泊や支援活動のために教会の近隣に新たな拠点となる建物を求めておりましたが、家を失った方が3000世帯を超える中、適した賃貸物件を求める事は困難を極めておりました。そんな中、空店舗が見つかり、日本聖公会が借主となり、震災支援の釜石ベースとして整備する事となりました。釜石駅からほど近い国道に面する1・2階合わせて40坪の建物で、1階は店舗フロアー・2階は3LDKの住居部分となっています。1階が支援活動に、2階がボランティア宿舎として活用される見込みです。

【ボランティアベース整備へ】

上記の建物は、津波到達点との境界線にあたり、津波で一階が浸水した事と、築40年の建物で老朽化が進んでいる上に長く空き家となっていたために、そのままの使用は困難な建物です。そのため、本格的な清掃と改修の作業が必要とされます。そのため、専門業者に委託する部分とボランティアで行える部分を仕分けすると共に、早急な使用開始のための行程表と段取りを整えるため、石塚正史兄（聖マーガレット教会信徒）急遽、現地入りし藤井司祭と共にその作業に入りました。

【ボランティアベースの掃除・改修ボランティア募集へ】

上記調査の結果、北海道教区よりボランティアを派遣する事になります。日程が決まり次第、改めて、急遽、道内諸教会にボランティア募集の案内をいたしますが、このような作業のために参加でき可能性がある方は、是非、支援室の方にお申し出ください。また、教会より推薦いただければ、支援室よりご本人に協力の要請をいたします。また、宿舎整備のための、生活物資（いわゆる鍋・釜・布団）の整備の物資提供リストの作成も考えていますので、併せて今後のニュースにご留意ください。

【表瑞木さん、仙台オフィスに着任】

表瑞木（おもて・みづき）姉（札幌キリスト教会信徒）は、教区の支援室開設当初よりボランティアとして協力いただいていたが、7月4日より、日本聖公会震災支援仙台オフィスのスタッフとして着任されました。任期は、3か月毎の更新となっています。現地オフィスでは主に、専門性を生かして管理システムの構築と維持にあたっておられます。お働きのためにお祈りください。

【被災地支援活動報告会】

7月11日（月） 午後6時30分～ 札幌キリスト教会

第一部 礼拝：亡くなった方、安否不明の方、被災者の生活再建、東北教区を覚えて祈ります。

第二部 報告会：4月以降、釜石に滞在、支援活動を展開した教役者・ボランティアの方々から、震災地の現状・支援活動について画像を交えて報告を聴きます。
また同報告会には、リベリナ教区からの被災地視察チームをお迎えします。

【支援室の活動】

6/23・30「釜石通信」印刷・製本、7/1 運営委員会に大町司祭出席（仙台）、7/4～8 大町司祭・吉野執事 リベリナ教区の訪問団に同行、7/5 吉野執事ユースアッセンブリーへの東北教区青少年招待のための打ち合わせ（仙台）

【次回支援室会議】7月12日（火）午後3時～（教区会館）

【震災支援室より】

- ◎ ニュース定期便は、各教会において掲示下さると共に、増刷して配布ください。
ニュース定期便のバックナンバーは、日本聖公会北海道教区のホームページに入り、「東日本大震災について」（アカ字で表示）をクリックすると見る事ができます。
- ◎ 教会や個人での取り組みについても、お知らせください。他の教会の活動の参考になります。